

2024年度 メリー★ポピンズ朝霞台ルーム

事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2024年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

基本活動を基に、子ども自ら経験の選択ができるよう、物的環境と人的環境を整えることに努めた。物的環境においては、子どもの発達に合わせて少人数で活動を進められるよう、室内環境や戸外活動時の工夫を図った。人的環境においては、コンピテンシーを活用し、プロの保育者として子どもを前向きに捉え、遊びが学びであることを理解したうえで、保育を実践してきた。引き続き、基本活動を深く理解し、子ども達の生きる力を育む保育を実践していく。また、スタッフ育成においても研修受講の機会を多く提供することができた。園全体の学びと保育の振り返りに繋げることができた。学びを実践に活かし、より深い学びへと今後も取り組んでいく。

地域交流においては利用者数が増加した。引き続き、利用者のニーズを理解し、気持ちの良い接遇と地域に親しまれる園となれるよう活動を実践していく。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもの「やってみたい」を実現する。
	実践結果	子どものサインに気付けるよう、少人数での活動の工夫を図った。子どもの気持ちに寄り添い、受容的で応答的な関わりを意識した。傾斜の登り降り、木登り、鉄棒、平均台、感触遊びなど、子どものやりたい気持ちに答えられるように環境を整えた。
	次年度方向性	子どもの発達に合わせた活動内容の検討と実践ができた。基本的活動の深い理解を通して、子どもの育とうとする力を大切に、保育環境を整えていく。
2	計画・ねらい	関わる力を育む。
	実践結果	家庭的で温かな雰囲気を大切に、保育園が大きな家として異年保育を実践してきた。異年齢での関わりから、興味を持ち、意欲的に活動に参加する子や年下の子を思いやる心が育ってきている。また、大人が一定の距離をとり、見守るなかで子ども自身が判断し、行動する力の土台を培ってきた。
	次年度方向性	子ども自身が活動・玩具・教材を選び、手に取り、10よりも100の探索ができるよう環境を整える。
3	計画・ねらい	一人ひとりの育ちを認める保育の実践。
	実践結果	子どもの興味・関心や気持ちに目を向けるようにしたことで、子どもの思いに寄り添うことに繋がった。子どもの一人ひとりの良さを大切にしていた。

	次年度方向性	引き続き、子どもの育ちや想いに寄り添い、「10の姿」の基盤となる力を育んでいく。
--	--------	--

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	子どもの発達の様子を保護者に細やかに共有、発信して育ちを共に喜び合える関係性を構築する。
	実践結果	園接遇の向上に合わせて、相手の立場に立った対応を心掛けてきた。写真や動画の活用で園での様子をより詳しく伝えた。お迎え対応では、園での取り組みを他の園に発表することができた。また利用者アンケートや連絡帳、運営委員会でもお迎え対応や保育者の対応について高い評価をいただけた。
	次年度方向性	個別面談の全家庭実施や保育参加の呼びかけは引き続き、実施する。育ちを喜び合えるよう、生きる力を育む保育を実践していく。
2	計画・ねらい	子育てのパートナーに選んでいただいたことを常に自覚し、気持ちの良い接遇を日々追求する。
	実践結果	園接遇の向上の取り組みから、『言われたからするのではなく、必要だと思うことを自分の意思で行動する』ことに繋がった。玄関や子どもロッカー等の整理整頓など、保護者目線での対応を心掛けた。
	次年度方向性	子ども・保護者・保育者の笑顔を大切に、引き続き、園接遇の向上に取り組む。
3	計画・ねらい	自園の保育を職員一人ひとりが自分の言葉で保護者に説明することができ、保育内容の共有や理解を深める。
	実践結果	今年度も個別面談を実施することができた。各担任の言葉で保護者と成長を喜び合うことができた。また、家庭での様子を聞くことで、子どもの姿や子育ての悩みなどを共有することができた。
	次年度方向性	職員の伝える内容の質にはまだ差があるので、エピソード研修などを実践し、子どもの発達と姿の理解を深めていく。引き続き、運動会、成長を伝える会、保護者懇談会などで職員自身の言葉で子どもの成長を伝える、保育内容の理解を深めてもらえるよう取り組んでいく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	自園を利用される保護者を含め、地域の保護者が求めるニーズを理解し、園で応えられる最善の支援を行う。
	実践結果	青空保育においては、全体的に参加人数が少なかった。その反対にちきんえっぐなどで園に来訪する方が増加した。
	次年度方向性	園に来訪する家庭が増えてきた為、リピーターを増やしつつ、地域のニーズに応えられるよう取り組んでいく。また、Instagram やロコミなども活用していく。
2	計画・ねらい	自園での取り組みや成果を地域に向けて発信し続け、より多くの方に園を知ってもらう。

	実践結果	SNSでの発信は、期間が空いてしまうことがあった。定期的に発信し続けることができるよう、作業時間の確保や投稿できる職員を増やすなどの工夫をしていく。
	次年度方向性	SNSでの発信を定期的に実施する。保育園を探す家庭や採用などにも繋げていく。
3	計画・ねらい	地域の保護者同士をつなぐ役割を果たす。
	実践結果	ちきんえっぐで参加した家庭が友達を誘い、参加してくれたことでリピーターとなった。参加人数が増えることで保護者同士が繋がる機会へと繋がっていきたい。
	次年度方向性	参加者と園とのつながりはできてき始めている。参加人数を増やすことで、保護者同士を繋げていけるように引き続き、取り組んでいく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	大人のにんげん力を向上させる。
	実践結果	コンピテンシーを活用し、自己の振り返りを通し園全体の目標へとつなげていった。言われたからするのではなく、必要だと思うことを自分の意思で行動することができるようになってきた。特に接遇面においての主体的な行動に現れるようになってきている。
	次年度方向性	相手の立場に立つ姿勢を忘れずに、個のパフォーマンス力ではなく、チームとしての成果を重視していく。引き続き、大人のにんげん力向上に努める。
2	計画・ねらい	一人ひとりがプロフェッショナルとして考えて行動する。専門性を活かした保育の継続を目指す。
	実践結果	キャリアアップ研修受講の機会を多く設けることができた。学びを園会議の中でアウトプットすることで学びを深めた。
	次年度方向性	子どもや社会環境は常に変わる為、常に謙虚に学び続けていく。研修や自身の学びを実践し、専門性を深めていく。
3	計画・ねらい	自身の育成計画を自身でたて、仕事に対するやりがい、モチベーションを向上させる。
	実践結果	自身の目標設定については、施設長と主任を交えた面談にて、組織目標と個人目標を繋げた目標設定を設定することができた。進捗確認や中間面談では、十分な時間を確保することができなかった点が課題であり、次年度に改善していく。
	次年度方向性	自身の育成計画は引き続き実施し、常に学ぶ姿勢と向上心を上げていく。保育という尊い仕事に誇りを持ち、前向きに課題に向き合っていけるようにする。進捗確認や面談時間の確保など、計画的に実施し、サポートしていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食育や環境にまつわる活動を通じて給食残渣の削減を目指す。
	実践結果	野菜の下処理から出た、野菜や果物の皮やくずを細かくちぎり、土と混ぜ堆肥作りを実施（コンポスト）。秋に畑に戻すことができたが、皮が残ってしまい、土と混ざりにくかった点が課題である。 給食残渣は2021年4月から70%まで減らすことができた。
	次年度方向性	丁寧な食事の関わりから、給食残渣を減らすことにも繋がることが実感できた為、引き続き、丁寧な保育の実施をしていく。また、堆肥作りと畑への活用にも力を入れ、取り組んでいく。
2	計画・ねらい	年々変化していく環境に対応した保育の展開を目指す。
	実践結果	緑のカーテンはテラスのフックが破損していた為、実施できなかったが、代わりに窓際に植物や野菜を植えて代用した。公園でのゴミ拾いは、毎日の散歩で実施。
	次年度方向性	テラスにてプランター菜園を実施し、緑のカーテンを実施する。戸外活動時のゴミ拾いについては引き続き行い、地域の一員として子どもの遊ぶ環境を整えていく。

〈6〉子どもの「やってみたい」が実現する環境作り

1	計画・ねらい	子ども自ら選択することのできる環境設定
	実践結果	年間行事策定会議にて決定した行事にとらわれず、保育の中で子どもの姿に合わせた体験活動を実施してきた。活動の選択は子ども自身が選べるように配慮しながら、子どもの興味や意欲を引き出せるように取り組んだ。室内環境においては限られたスペースの中でより良い環境を目指していく。
	次年度方向性	共に暮らし、共に遊び、共に労働し、頼りあい、ぶつかりあい、手を差しのべあう環境を構成する。基本活動を丁寧に実践し、10よりも100のホンモノの経験の機会を子どもに用意する。
2	計画・ねらい	保育者自身が環境としての役割を把握し、適切な関わり方を実践する。
	実践結果	人的環境としての関わりについて、コンピテンシーを通して自己を振り返り実践に努めた。人権チェックや虐待防止研修を実施し、保育者の関わりを常に見直した。
	次年度方向性	養護の観点から保育者の人的環境は子どもの育ちにおいて重要だと捉え、次年度も適切な関わりができるよう取り組んでいく。
3	計画・ねらい	子どもの育ちと養護・教育が一体となった保育の実践。
	実践結果	保育の中では、受容的で応答的な関わりを大切に関わってきた。子どもの気持ちを受け止めてから次の対応をすることで子どもの気持ちを認め、尊重した。集団生活においては、しなければならないことや、できないこと

		を経験しながら学んでいけるよう配慮した。
	次年度方向性	一人ひとりの発達や集団の育ちの状況に応じて、多様な生活体験、自然体験、異年齢交流など、具体的に保育を構想し実践する

〈7〉「食を営む力」を育む保育の実践

1	計画・ねらい	生活、遊びの中で食への意欲を高める。
	実践結果	戸外活動を十分に行い、食への意欲に繋げていった。野菜の下処理は日課の後に実施することができ、指先の発達も促すこともできた。
	次年度方向性	基本活動の深い理解の基、遊び・労働・食事・休息のサイクルを大切にする。
2	計画・ねらい	生き物の生死、食の循環に触れて食べることの大切さを知る。
	実践結果	魚を捌いて食べる経験を通して、魚が食卓に並ぶまでの一連の流れを体験することができた。食の循環に触れることができた。
	次年度方向性	「命をいただいている」ことを食の体験を通して伝えていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4～9月	54人	72人	72人	0人	0人	0人	198人
年度後半： 10～3月	54人	72人	72人	0人	0人	0人	198人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	27 人	21 人	57 人	48 人	41 人	46 人	65 人	24 人	26 人	23 人	18 人	60 人	438人
うち0 歳児	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0人

（解説）18時以降の延長保育利用者数とする。

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	9人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	9人
うち0歳児	9人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	9人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	10人	看護師	0人	栄養士	0人	調理員等	1人
	再雇用スタッフ	0人	言語聴覚士	0人	臨床心理士	0人		
パートスタッフ	保育士	3人	補助	0人	調理	0人	事務	0人
	用務	0人	再雇用スタッフ	0人	嘱託職員	0人	嘱託医	2人
	言語聴覚士	0人	臨床心理士	0人				

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・保育内容の充実における討議
給食運営会議	月1回	食育会議に基づく食育活動、離乳食・アレルギー等の共有

事故防止委員会	月1回	自園及び系列園における事故事例に基づいた討議 ヒヤリハット・インシデントの分析
係会議、クラス会議	随時	保育内容の検討、子どもの発達について

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉系の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	保健衛生管理、安全管理、感染症等の呼びかけ
安全対策係	ヒヤリハット、インシデントの分析、事故防止、危機管理
防火管理者	消防計画に則り、災害時や不審者対応に対する取り組み （避難訓練等の立案、実行、反省等を含む）
食品衛生管理係	食品の安全に対する管理
畑係	年間畑計画の遂行や畑仕事の確認、整備、管理
生き物係	備品点検と発注、補充

〈4〉行事系の設置状況

係名	活動の様子・省察
保護者行事係	どろんこ祭りをはじめとする保護者参加行事において、保護者と 共同的に準備、進行を行う

地域連携係	青空保育、子育て支援等の地域に向けた対外的な広報を行う
-------	-----------------------------

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戸外活動、畑仕事、様々な体験行事と食育活動に、園だからこそできる貴重な体験と評価をいただく。 ・ お迎え対応や玄関掲示のポートフォリオ、製作作品の展示等で保護者や地域の方に園での様子や子どもの育ちを見えるようにしたことで、園での活動や保育内容にご理解をいただくことができた。 ・ 個別面談を実施し、保護者の気持ちに寄り添い、共に子育てする姿勢を大切に支援した。
保育参加	<p>4～3月まで 合計3名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 園での日課を体験してもらいながら、子ども同士の関わり、好きな遊びやできるようになったことを保育に入りながら見ていただいたく。
保護者面談および発達相談	<p>4～3月まで 合計43名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭での悩み（食事、歯ブラシ、睡眠、入浴、トイレトレーニング、イヤイヤ期等）について ・ 子どもの成長を共有
運営委員会	<p>運営委員会を6月28日、11月22日に朝霞台ルームにて実施し、参加した保護者2名</p> <p>詳細は議事録に記載</p>

〈2〉計画した年間行事の振返り

- ・ 別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・ 保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

I	計画・ねらい	食事の時間を「楽しい」「美味しい」「嬉しい」時間とする。
	実践結果	<p>食事環境（物的・人的環境）を整えたことで保育者が一緒に食事をとれるようになった。</p> <p>離乳食、宗教食など、丁寧に聞き取りをすることで、一人ひとりに合わせた対応することができた。</p>
	次年度方向性	戸外活動を十分に行い、空腹感から食欲を満たす時間となるように配慮する。盛り付けや配膳など、丁寧な導入と段階的に進めていくことで、子ど

		もの自信や意欲につなげていく。
2	計画・ねらい	家庭との連携を図り、食を営む力の基礎を作る。
	実践結果	全家庭個別面談の実施、0歳児においては随時ヒアリングを実施し家庭との連携を図ってきた。食材に多く触れ、興味を持てるよう、野菜の下処理を日課の後に実施することが習慣づいた。
	次年度方向性	引き続き、家庭との連携を密にし、細やかな配慮をしながら、子どもの食を営む力を育てていく。米研ぎなどの実施ができなかったので次年度に取り組んでいく。
3	計画・ねらい	継続して畑仕事や食育活動に取り組み、食の循環に触れる。
	実践結果	食育体験や日々の野菜の下処理、畑仕事を通して、毎日の中に食と関わるができるようにした。食育活動では全ての調理工程について体験をすることができた。一尾の鯖を目の前で捌き、食べることも実施し、命をいただくことを知るきっかけになった。
	次年度方向性	畑仕事、堆肥作りを丁寧に確実にを行い、食の循環に触れていけるようにする。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	7月11日／10月23日に実施
歯科検診	6月21日に朝霞台ルームにて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月と1月に歯磨き指導を実施 ② 感染症流行時期に手洗いと手指消毒指導を実施 ③ 週に1回の爪チェックの実施。
流行した感染症	① 8月にアデノウィルス、園児3名感染報告有り。8月23日に終息。 ② 1月にインフルエンザ、園児2名感染報告有り。1月18日に終息
発作・痙攣等の対応	・該当なし

エピペン使用できるスタッフの状況	・本日時点で、在籍スタッフ14名のうち、13名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・本日時点で、在籍スタッフ14名のうち、13名が使用可能
その他保健に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症に対しての掲示とタイムラインによる発信。 ・爪のチェックの実施。 ・感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月1日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／7月11日、10月23日 歯科健診 各年1回／6月21日

運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月19日、10月18日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子ども自らが経験の選択をすることができる室内のゾーン設定を行う。
	実践結果	子ども自ら選べる環境を大切にし、玩具の種類を多く設置した。棚の配置や玩具を戻しやすいように写真を貼るなどの工夫をした。ドーナツ型の室内でゾーンを作ることに試行錯誤した。
	次年度方向性	自然物を使った制作や遊びを存分に経験できるようにする。室内環境においては、子どもの発達や興味・関心に合わせて都度、環境構成を繰り返していく。
2	計画・ねらい	戸外でものびのびと安全に探索活動を楽しめる活動を提供する。
	実践結果	戸外活動開始前には必ず、ゴミ拾い、危険物や破損箇所の確認等を実施し、子どもが安全に遊べるように配慮した。長距離散歩では、歩くことを楽しめるような工夫をし、少しずつだが着実に子ども達の歩ける距離を延ばしてきた。
	次年度方向性	子どもの意志を尊重し、自分たちで経験を選択できる環境を整える。
3	計画・ねらい	保育者も環境の一部として自覚ある行動をとる。
	実践結果	コンピテンシーを活用し、プロとしての対応や接遇を意識して取り組んできた。子どもの命を守る為、死角を無くし、保育者の身体の向きや注意が必要な時期や時間帯などについて都度、指導した。
	次年度方向性	物を大切に丁寧に扱う、いつも清潔を心掛けるなど、保育者自身が子どもに背中を見せて伝えていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

該当なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	消防計画、避難訓練、避難訓練開催通知、自衛消防訓練通知、救命講習の受講、防災自主点検、危機管理マニュアルの周知、自衛消防組織と安全対策係の設置、緊急地震速報運用を行った。非常持ち出し品、非常備蓄品、防災準備品の点検の実施。
2	実践結果	故防止チェック及び設備点検チェックの実施、AED の点検と訓練、安全教育、SIDS 防止策、与薬ミス防止策の徹底を実施。
3	実践結果	不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を実施。
4	実践結果	職員全員が自治体の「光化学スモッグ注意報発令メール配信システム」に登録し、注意報発令の把握を行った。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

今年度受入なし

〈2〉実習生の受入

今年度受入なし

〈3〉中高生の受入

今年度受入なし

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	19日 14名	17日 14名	21日 14名	19日 14名	9日 14名	20日 14名	18日 14名	15日 14名	20日 14名	24日 14名	25日 14名	25日 14名
人権チェック・虐待防止研修	18日 14名	実施 なし	実施 なし	実施 なし	実施 なし	実施 なし	18日 14名	実施 なし	実施 なし	実施 なし	実施 なし	実施 なし
虐待防止研修	19日 14名						18日 14名					

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
7月16～17日	どろんこ会グループ	東京都保育士等キャリアアップ研修（乳児保育）	1名	無
7月23日	どろんこ会グループ	東京都保育士等キャリアアップ研修（食育・アレルギー）	1名	無
8月31日	埼玉県主催	キャリアアップ研修（食育・アレルギー）	1名	無
9月3日	埼玉県主催	キャリアアップ研修（保護者支援・子育て支援）	2名	無
9月30日	埼玉県主催	キャリアアップ研修（保護者支援・子育て支援）	1名	無
11月30日	埼玉県主催	キャリアアップ研（乳児保育）	3名	無
11月30日	埼玉県主催	キャリアアップ研（幼児教育）	1名	無
11月30日	埼玉県主催	キャリアアップ研（障害児保育）	1名	無
11月30日	埼玉県主催	キャリアアップ研修（食育・アレルギー）	1名	無
11月30日	埼玉県主催	キャリアアップ研（保健衛生・安全対策）	1名	無
1月31日	埼玉県主催	キャリアアップ研（幼児教育）	3名	無
1月31日	埼玉県主催	キャリアアップ研（乳児保育）	1名	無
1月31日	埼玉県主催	キャリアアップ研（保健衛生・安全対策）	2名	無
1月31日	埼玉県主催	キャリアアップ研修（食育・アレルギー）	1名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月～12月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	出席者なし。											
デノマークインターンシップ	今年度実施。該当者なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

計画的に保育の中に地域交流を盛り込むことができた。散歩の道中に通りがかる店先にいる店員や、公園で出会った地域の家庭との交流等、日常の中での交流も昨年度に引き続き行った。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：弁財公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：朝霞台駅、北朝霞駅、朝霞台駅前交番、浜崎消防署、セブンイレブン、100円ローソン、花屋、東武ストア、サミット、マツモトキヨシ等
世代間交流	7月30日に朝霞台ルームにてボディペインティングを実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

＜1＞ 今年度の振り返り

該当なし

＜2＞ 具体的な連携

該当なし

10. 要支援児

今年度、対象児童なし。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3名	5名	0名	4名	0名	5名	3名	3名	9名	12名	2名	4名	50名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(金) 9:30～16:30 にて実施 来園延べ人数：27名												
子育て相談	(月)～(金) 13:00～16:30 ⇒計0件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎月2回 10:00～12:00 ⇒計24回実施済み												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	5名	2名	0名	2名	11名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎月1回 10:00～12:00 ⇒計12回実施済み												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	2名	0名	4名	0名	0名	0名	0名	2名	6名	2名	0名	16名
勝手籠設置	(月)～(金) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：弁財公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	3名	3名	0名	0名	0名	3名	3名	3名	2名	4名	0名	2名	23名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年9月12日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：9時00分

自己評価終了時刻：16時00分

自己評価実施者：施設長、主任、調理師

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：123%

昨年度より回収率を上げることができ、NSPスコアも上昇した。今年度も美観や接遇面を大切に保育と保護者対応を取り組んできた。情報共有においては、日々の朝礼や昼礼、園内チャットなどを活用した。多くの経験をしてもらえるよう活動を実施してきたが、事前に保護者への通知や感染症流行時のお知らせ方法など、今後も検討し、引き続き、丁寧な保育と対応の実施に努めていく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上